

なりたの森遊び体験

- 成田市では、森林所有者の高齢化等により、荒廃した森林が増加しており、子供たちが里山で遊ぶ機会がほとんどなくなってしまっていた。
- このような現状を踏まえ、森林環境譲与税を活用し、児童を対象とした「もりあそび体験」を実施することで、里山への理解や関心を深めてもらうとともに、本市における里山活動に興味を持っていただく事業に取り組んだ。

□ 事業内容

- ・ 現地にある自然で工夫して遊び、森の素晴らしさや豊かさを実感するプログラムとなっており、具体的にはじゃんけん落ち葉拾い、葉っぱじゃんけん、秋のビンゴ、どんぐりゲーム、葉っぱのステンドグラス、落ち葉飛ばし、落ち葉のゆくえ、絵本の読み聞かせの8種類のプログラムを実施した。

【事業費】 212千円（全額森林環境譲与税）

【実績】 成田市立大栄みらい学園1年生42名を対象に実施

□ 取組の背景

- ・ 多様な遊び方が増えたことや里山の荒廃により、子供たちが里山で遊ぶ機会はほとんどなくなっている。

□ 工夫・留意した点

- ・ 児童を4班に分け、それぞれに自然観察指導員が付き、児童が、森の素晴らしさや豊かさを実感できるようにプログラムの流れを工夫した。

□ 取組の効果

- ・ 今回の森あそび体験を通して、児童が自然と触れ合うことで、里山への理解や関心を深め、将来、担い手となる人材を育むきっかけとなった。
- ・ 児童も初めて見る虫や葉っぱ、木の実に興味を持ち、熱心に取り組んでいた。

□ 森遊び体験の様子



(じゃんけん落ち葉拾い)



(葉っぱのステンドグラス作成)



(落ち葉飛ばしの様子)



(絵本の読み聞かせの様子)